

1. 他学校の例

○自校では、刺激量を減らすために、掲示物の統一や整理を図っている。

2. 児童理解のためのツールについて

○まっぷるⅡの扱いについて。

- ・町で統一されている形式であること、保護者の同意が必要としていないこと。
- ・冬休み中に、各担任が次年度のために、本年度の評価と次年度の目標や支援内容を記入し、新担任に引き継げるように作成していること。

3. 支援部について

○分掌に支援部が設立された経緯。

- ・UDについては、担任だけではなく、さまざまな子ども達に関わる教職員が各々で取り組んで来た。また、特別支援についても精通している先生方が多い。また、本校は支援学級児童や支援を必要としている児童が多いことも実態としてある。これらから、本校にとっての特別支援が重要であり、管理職が必要と考えてのことではないか・・・。

4. 学習室について

○学習室を利用する児童の様子や、その効果について。

- ・自分の苦手なところが分かり、自分の現状やどうしたいのかを伝えられるようになってきている。

○学習室の利用の仕方について。

- ・児童には事前に、学習室があること（クールダウンする場所、気持ちを落ち着ける場所、少人数で学習できる場所など）について知らせておき、またどのようなところかを実際確認させておくこともある。その上で、興奮する前（事前に）に担任が声かけをしたり、児童本人が選択決定して、学習室を利用する。

5. UD環境整備について

○教室前面の掲示物の整理による、効果について。

- ・学年が変わっても、移動教室で教室が変わっても、同じような環境のもとで学習ができることから、落ち着いているように感じる。実際に児童の声を聞いている訳ではない。

6. 資料について

○今回の資料からでは、支援が必要な児童の短所しかみえてこない。長所についてもものせたほうがよかったのではないかと。

- ・よいところはもちろんあることは前提で、発表の内容からあえて課題点を挙げて作成した。

7. 具体的な事例について

○落ち着かない子、パニックになる子、切り替えが難しい子、などへの具体的な対処の仕方。

- ・複数の人が対応できるようにする。
- ・ゆっくり落ち着いて話が聞ける人、本人が話せる相手をだれでもよいのでみつけること。
- ・あせらず、受容し続けることで、変わっていくもの。長いスパンでみて考える。